

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中学生の部

令和四年七月度 入賞句一覧 投句数 千五百七十四句



特選

遠藤 幹郎 選

大きななにゆうどうぐもは王さまだ 大垣市 あさの かのん（小三）

暑い夏の午後の空によく見受けられる入道雲を、作者は「にゆうどうぐもは王さまだ」と詠い上げました。入道雲は、雲の天辺が丸く高く盛り上がって、入道のように見えることからこう呼ばれます。「にゆうどうぐもは王さまだ」が、とてもよく効いた一句です。

空青くえがおはじける初プール 大垣市 伊藤 蓮人（小四）

晴れわたった青空のもと、今日は待ちに待ったプール開きの日です。「えがおはじける初プール」に、作者の初およぎのできる喜びが、生き生きと表現できました。プール開きのことを「初プール」と言ったところ、喜びの気持ちを「えがおはじける」と表現したところに、実感がこもっていて、すてきな一句となりました。

風鈴の音が広がる祖父の部屋 加茂郡川辺町 酒向 律希（中三）

風鈴の音が涼しげに鳴る広い部屋で、おじいさんが、暑い夏の午後のひとときをくつろいでいる様子が伝わってくる一句です。おじいさんは、風鈴を長く親しんで来られたのでしょうか。わずかな風を受けて、心地よく奏でる風鈴の音に浸っておられるようです。

秀逸

うきわ乗りこんがり焼けた僕の肌 加茂郡川辺町 田口 憲之介（中二）

外へ出て日ざしは密かに肌を灼く 大垣市 山本 望（小六）

芭蕉の葉すける緑に手をかざす 大垣市 裁 柁文（小六）

なつまつりみこしの上でおどりたい 大垣市 子安 晴（小六）

あおばかげひとりたたずむばしようさん 大垣市 佐藤 志音（小六）

つゆあけて水門川に光さす 大垣市 桑原 滉（小六）

夏の日にお茶をいつきにのみほした 大垣市 新津 諒真（小六）

えだまめはふくろのなかでねむってる 大垣市 たにもと ゆいな（小二）

ひまわりはたいようをむくまぶしそう 大垣市 かとう たいと（小二）

炎天下ペダルをこいでかけていく 加茂郡川辺町 古川 帆稀（中二）

# 入選

下敷きであおぎあおられ夏の風  
手の中で静かに光る蛍かな  
家族旅真夏の車で海におう  
夕立におわれ飛び込むマイホーム  
制服が小さく感じる衣替え  
新緑の葉のかげまとうもやいぶね  
もやい舟新緑のかげうつつてる  
ばしよりの葉大きくしずかにゆれている  
葉桜の下でたたずむまつおばしよう  
夏の川鯉いきいきと泳いでる  
青葉風水門川が流れてく  
つゆあけの青い空がまぶしいな  
夏の川流れにさからいおよぐこい  
夏の空遠くに見える金華山  
夏の川水面がゆらゆら光ってる  
あおばこう木々のすきまをとおつてく  
夏の川水面に映る赤いはし  
コイすらも舟にかくれる炎天下  
外あそびつかれて麦茶生きかえる  
ゆつたりと日陰で休むばしよさん

加茂郡川辺町

田原 真衣（中二）

加茂郡川辺町

馬場 貴大（中二）

加茂郡川辺町

赤塚 亮介（中二）

加茂郡川辺町

山口 翔大（中三）

加茂郡川辺町

村田 果杏（中三）

大垣市

境井 優衣（小六）

大垣市

長屋 希美（小六）

大垣市

脇淵 小雪（小六）

大垣市

桐山 紗愛（小六）

大垣市

西脇 みこ（小六）

大垣市

平野 駆人（小六）

大垣市

松宮 もあ（小六）

大垣市

久世 征未（小六）

大垣市

平澤 奏（小六）

大垣市

山崎 竣也（小六）

大垣市

河村 優利（小六）

大垣市

藤原 亜優菜（小六）

大垣市

西垣 邑星（小六）

大垣市

清水 杏莉（小六）

大垣市

河添 朔也（小六）

# 選者吟

法螺の音天地にひびく滝開き

幹郎



# 小中学生の部